

☆第1回「杉田玄白賞」受賞者（応募22件）

《杉田玄白賞》

宮崎市介護老人保健施設ひむか苑 栄養管理室長 黒田 留美子 氏

（現在 財団法人潤和リハビリテーション振興財団診療研究所客員研究員）

氏は、管理栄養士として食べ物が口から食道に入るまでの流れを研究し、かんだり飲み込んだりする力が衰えても、おいしくかつ安全に食べる事が出来る介護食の研究に長年専念され、「高齢者ソフト食」を開発されました。

この黒田氏の研究と取り組みは、その高評価はもとより杉田玄白の医食同源の理念、そして本市の推進する食のまちづくりにも通じるものがあることから選ばれました。

☆第2回「杉田玄白賞」受賞者（応募8件）

《杉田玄白賞》

WHO 循環器疾患予防国際共同研究センター長 家森 幸男 氏

（現在 武庫川女子大学国際健康開発所長）

循環器系疾患は「栄養(食事)により遺伝子の支配を克服して病気の予防が可能であり、日本食が世界の健康に大きく貢献しうる」ことを証明した研究・取り組みから選ばれました。

☆第3回「杉田玄白賞」受賞者（応募16件）

《杉田玄白賞》

青梅市観光協会長（元青梅市長）田辺 栄吉 氏 （故人）

蘭学史の研究ならびに杉田玄白を始め多くの医人達の業績研究や医跡を探索し、数々の調査結果をまとめ有益な成果を残され、広く普及・周知に努めている取り組みから選ばれました。

☆第4回「杉田玄白賞」受賞者（応募8件）

《杉田玄白賞》

名古屋市立大学大学院医学研究科教授 郡 健二郎 氏

（現在 名古屋市立大学学長・理事長）

尿路結石の発生機序を分子レベルで解明し、その機序は動脈硬化に似ており、生活習慣病のひとつとして捉え、食生活による改善により予防できることを示した研究・取り組みから選ばれました。

☆第5回「杉田玄白賞」受賞者（応募10件）

《杉田玄白賞》

京都大学大学院医学研究科教授 中尾 一和 氏

（現在 京都大学名誉教授）

抗肥満ホルモンであるレプチンに関する展開研究を実践し、過食の時代に激増する特に肥満症・メタボリック症候群・糖尿病等の予防・治療に向け、基礎研究から臨床応用に発展させた取り組みから選ばれました。

☆第6回「杉田玄白賞」受賞者（応募14件）

《杉田玄白賞》

新居浜市食生活改善推進協議会会長 秦 榮子氏

減塩・貧血改善運動、男性の料理教室、郷土料理の伝承など、先進的に長期に渡り取組まれてきた、地域に根ざした食育運動から選ばれました。

《杉田玄白賞 奨励賞》

岐阜大学教授（受賞時） 桑田 一夫氏

（現在 岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科医療情報学専攻生命情報研究 領域 教授）

タンパク質の構造をコンピューターで解析することにより、牛海綿状脳症（BSE）などの原因となる異常プリオンの治療薬を見出す研究から選ばれました。

☆第7回「杉田玄白賞」受賞者（応募15件）

《杉田玄白賞》

医療法人玄真堂川島整形外科病院理事長 川島 真人氏

日本で初めて西洋医学書を訳した「解体新書」を著すのに尽力した杉田玄白、前野良沢ら蘭学の歴史の研究、玄白の養生論の研究、当時のオランダの薬膳料理や正月料理、薬草風呂の再現・広報活動等から選ばれました。

《杉田玄白賞 奨励賞》

京都大学医学部附属病院小児科講師 依藤 亨氏

（現在 大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科部長、遺伝子診療部長）

多くの健康な新生児の骨の状態を調べ、うち20%の骨軟化児が血中ビタミンD欠乏状態にあり、中でも母乳栄養児にその割合が高いことから、現代の若い母親がビタミンD欠乏状態にある可能性を見出した研究活動から選ばれました。

☆第8回「杉田玄白賞」受賞者（応募16件）

《杉田玄白賞》

公立大学法人福井県立大学 理事・副学長 赤羽 義章氏（故人）

福井県特産の伝統的水産加工食品であるマサバへしこの独特の食味は、遊離アミノ酸とペプチド・乳酸等が寄与することを明らかにし、また動物実験の結果、へしこの熱水抽出エキスを、血圧上昇抑制作用や脂質代謝改善作用を有することを示した研究活動から選ばれました。

☆第9回「杉田玄白賞」受賞者（応募8件）

《杉田玄白賞》

畿央大学健康科学部健康栄養学科 教授 山本 隆氏

味覚と食行動の関係について、科学的に詳細な活動記録や分析をおこない、さらに、食嗜好性に関する調査研究を実施することで、幼児期から様々な食べ物の味を知るためには日本人本来の、和食中心の食事を幼児期においしく食べさせる食育の重要性を解明し、広く情報を発信している研究活動から選ばれました。

☆第10回「杉田玄白賞」受賞者（応募22件）

《杉田玄白賞》

早稲田大学先進理工学研究科博士課程2年 平尾彰子氏

体内時計の遺伝子と栄養の関係について、動物実験を行い、食を取り入れた体内時計による疾患の予防・治療法である時間栄養学の確立と薬に変わる食品等の追求を提唱している研究活動から選ばれました。

☆第11回「杉田玄白賞」受賞者（応募16件）

《杉田玄白賞 奨励賞》

独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所

水産物応用開発研究センター長 村田昌一氏

魚類(イワシ)・海藻類(ワカメ)について、動物実験を行い、それぞれの機能性を解明しました。また、それらを組み合わせて摂取した相乗効果も解明し、水産食品を中心とした多種多様の食材で構成される日本型食生活への見直しを積極的に推進している研究活動から選ばれました。

《杉田玄白賞 奨励賞》

東京大学総括プロジェクト機構総括寄付講座「食と生命」

特任研究員 大谷りら氏

妊婦の栄養環境について、動物実験を行い、妊娠期間中のタンパク質栄養の摂取量により、成長後の子、そして、その孫にも、世代を超えて継続して、生活習慣病発症に影響することを初めて明らかにした研究活動から選ばれました。

☆第12回「杉田玄白賞」受賞者（応募11件）

《杉田玄白賞》

宮崎大学医学部内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野 教授 中里雅光氏

食欲を亢進するペプチドの一種であり、ヒトの胃で生産されるグレリンについて、その生理作用および治療薬研究に成功されました。また、中鎖脂肪酸を含む食品はグレリン産生を亢進し、食欲亢進に有効であることを解明された研究活動等から選ばれました。

《杉田玄白賞 奨励賞》

防衛医科大学校内科学講座 助教 近藤春美氏

コーヒーポリフェノールによる善玉コレステロール機能増加について、コーヒーポリフェノールの一環であるフェルラ酸が善玉コレステロールの機能を高めることを、細胞培養実験、動物実験、さらにヒトを用いた実験で、長年不明だったコーヒーの抗動脈硬化作用を明らかにした研究活動から選ばれました。

☆第13回「杉田玄白賞」受賞者（応募23件）

《杉田玄白賞》

金沢医科大学糖尿病・内分泌内科 教授 古家大祐氏

カロリー制限が、生命維持、寿命の延長に有効であることは、既に知られていますが、そのメカニズムについては不明な点が多く残されています。古家氏は、動物実験により、カロリー制限その一端を明らかにされました。また、人においても、動物実験で認められた血液中の指標がカロリー制限で改善することを示された研究活動から

選ばれました。

《杉田玄白賞 奨励賞》

東北大学大学院 准教授 都築 毅氏

日本食と欧米食を、独自の実験方法により比較して、日本食が健康に有益であることを示されました。さらに、日本食においては、年代別の献立について比較し、特に、1970～1980 年代の伝統的日本食が、最も健康長寿に効果的であることを明らかにされた研究活動から選ばれました。

☆第14回「杉田玄白賞」受賞者（応募14件）

《杉田玄白賞》

北海道医療大学看護福祉学部 教授 山田律子 氏

認知症高齢者の食支援に関する研究・実践活動を22年間継続され、摂食困難を改善するための環境アレンジメントによるケア技法の開発や、自作のパンフレットを活用した家族や専門職者への啓発活動の取り組みから選ばれました。

☆第15回「杉田玄白賞」受賞者（応募15件）

《杉田玄白賞》

東京農工大学大学院テニュアトラック特任准教授 木村郁夫 氏

食由来、特に食物繊維由来、腸内細菌代謝物である短鎖脂肪酸や、食用油に用いられるオメガ脂肪酸による抗肥満・代謝機能改善に至るメカニズムを世界で最初に明らかにし、その成果をもとに機能性食品開発に着手した研究活動から選ばれました。

《杉田玄白賞 奨励賞》

武庫川女子大学国際健康開発研究所 講師 森真理 氏

世界25カ国61地域の疫学研究成果の適塩バランス食の普及と自らが国内外で実施した食育研究成果を生かした効果的な食育プログラムを実践。科学的根拠に基づく体験食育講座やボランティア活動の振興に尽力するなどの活動から選ばれました。

☆第16回「杉田玄白賞」受賞者（応募16件）

《杉田玄白賞》

九州大学大学院医学研究院

東京医科歯科大学大学院 教授 小川佳宏 氏

臓器局所における細胞間相互作用と全身臓器をつなぐ臓器代謝ネットワークの破綻により生じる慢性炎症に焦点を当て、生活習慣病の分子機構の解明と新しい治療戦略の開発に関する分子医学的研究を推進してきた研究活動から選ばれました。

☆第17回「杉田玄白賞」受賞者（応募13件）

《杉田玄白賞》

金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学） 教授 山田正仁 氏

地域コホート研究において緑茶やビタミンCの摂取が将来の認知機能低下リスクを下げることを示し、緑茶等に含まれるポリフェノールの抗アルツハイマー病作用を解明するなど、「食による認知症予防」を推進してきた研究活動から選ばれました。

《杉田玄白賞 奨励賞》

帯広畜産大学 教授 平田 昌弘 氏

世界の乳文化を調査研究し、地域に適應した生活のあり方を解明してきた。これらの成果を多くの講演会で発表し、生活の質の向上を目指すために日本型乳文化の可能性について、広く周知に努めてきた研究活動から選ばれました。

☆第18回「杉田玄白賞」受賞者（応募17件）

《杉田玄白賞 奨励賞》

立命館大学産業社会学部 准教授 田部 絢子 氏

2012年4月から発達支援に関する実証的研究に取り組み、その研究成果を学術書『発達障害等の子どもの食の困難と発達支援』（田部絢子・高橋智著）にまとめられました。この学術書において、発達障害当事者と保護者が抱える食の困難の実態・支援ニーズ、学校における支援の実態等を実証的に解明されています。

《杉田玄白賞 奨励賞》

山口大学大学院医学系研究科 講師 河村 敦子 氏

アメリカで開発された食事療法に日本の和食文化を融合した改訂版 DASH 食事療法（DASH-JUMP）をマルハニチロ株式会社と共同で開発されました。DASH-JUMP とは、Dietary Approaches to Stop Hypertension（高血圧予防・改善のための食事）Japan Ube Modified diet Program（日本型に修正したプログラム）の略称で、この食事療法は高血圧を下げる効果や生活習慣病指標（体重、肝機能、血中コレステロール等）の改善効果を示されています。また現在は、食することで食べる機能を維持・改善する研究が行われています。

☆第19回「杉田玄白賞」受賞者（応募26件）

《杉田玄白賞》

京都大学大学院生命科学研究科 准教授 神戸 大朋 氏

日本で問題となりつつある亜鉛欠乏症（特に乳幼児や高齢者に顕著）について、亜鉛を分子レベルで研究され、亜鉛欠乏食の創成に向けた基盤を確立し、亜鉛欠乏症発症の解明、診断法の確立など亜鉛を軸とした健康社会の実現に向けた応用研究を実施されました。現在は、亜鉛関連疾患の原因を明らかにし、疾患の治療や予防など健康生活の実現に貢献するための研究をより一層深められています。

《杉田玄白賞 奨励賞》

鹿児島大学農学部 講師 加治屋 勝子 氏

血管機能向上作用のある食材探索において約300種類の農作物の中から「桜島大根」を発見し、血管機能向上に寄与する活性成分（トリゴネリン）を特定、その作用・仕組みを分子レベルで解明されました。加えて、同大根を用いた臨床試験によりヒトに対する血管機能向上効果も明らかにされています。現在は、桜島大根のように高い血管機能向上効果を持つ野菜の研究や、血管機能向上成分を含む高機能性幼葉野菜の開発に挑戦されています。

☆第20回「杉田玄白賞」受賞者（応募11件）

《杉田玄白賞》

東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 村田 幸久 氏

「食の安全・安心」をゆるがす疾患であり、特に子どもに多い食物アレルギーについて、「尿」を用いた簡易な診断技術や治療の開発をされました。また、アレルギー抑制効果のある食品成分（青魚脂質）の発見といった研究成果が受賞に選ばれました。

《杉田玄白賞奨励賞》

京都大学大学院農学研究科 特定助教 金子 賢太郎 氏

現代において人々の関心の高い課題である肥満について、脳の食欲中枢である視床下部と食成分の相互作用に関する研究を行ない、消化管由来のホルモンや食成分が食欲中枢に作用する新しいメカニズムと食シグナルにより肥満を改善できる新しい概念を提示されるなどの研究活動から選ばれました。

☆第21回「杉田玄白賞」受賞者（応募17件）

《杉田玄白賞》

京都府立大学 分子栄養学研究室 教授 亀井 康富 氏

栄養・代謝物シグナルと食品機能に関して、脂溶性ビタミン受容体や転写調節因子の役割を動物・細胞実験で明らかにするとともに、筋萎縮の予防や代謝能を活発にする、食品中微量成分の探索系を確立するなどの研究成果から選ばれました。

《杉田玄白賞奨励賞》

富山県立大学工学部医薬品工学科 准教授 古澤 之裕 氏

食物繊維やポリフェノールなどの機能性素材が、腸内細菌を介して宿主の免疫を調節し、腸炎やメタボリックシンドロームをはじめとする疾患の予防に寄与することを明らかにするなどの研究成果から選ばれました。

《杉田玄白賞地域奨励賞》

福井県立大学生物資源学部 特命教授 村上 茂 氏

未利用海藻の健康増進効果、特に肥満や糖尿病などの生活習慣病の予防効果を解明するとともに、成果を活用して新たな商品や料理の開発を行ない、食による健康長寿と地域活性化の実現に取り組むなど、地域に根ざした活動から選ばれました。

☆第22回「杉田玄白賞」受賞者（応募12件）

《杉田玄白賞》

文教大学 学長 中島 滋 氏

中島氏は、赤身魚に多く含まれるヒスチジンの抗肥満作用および抗酸化作用などの研究を行い、現代の生活習慣病や食に密接した分野で研究成果をあげられています。

《杉田玄白賞奨励賞》

京都大学大学院農学研究科 助教 小栗 靖生 氏

エネルギー消費量の増大に重要な役割を果たす熱産生脂肪細胞であるベージュ脂肪細胞の前駆細胞を特定されるなど、生活習慣病予防に向けた更なる発展・応用が期待される研究成果をあげられています。

《杉田玄白賞地域奨励賞》

福井県立大学 海洋資源学部 教授 松川 雅仁 氏

若狭地域における魚肉タンパク質を主成分とする加工水産物の安全な流通につながる研究を進め、福井県水産加工品の付加価値向上と新商品開発に向けた応用研究など、数多くの実績をあげられています。

☆第23回「杉田玄白賞」受賞者（応募13件）

《杉田玄白賞》

京都府立医科大学大学院医学研究科生体免疫栄養学講座 教授 内藤 裕二 氏

食の栄養素が腸内細菌や腸内環境に影響を与え、免疫や代謝、他臓器機能を制御することを解明するとともに、パーソナルヘルスレコードに応用した健康長寿戦略を推進されました。

《杉田玄白賞奨励賞》

大阪大学微生物病研究所 准教授 河本 新平 氏

免疫グロブリン A を介した宿主と腸内細菌叢の相互作用が健康および老化に及ぼす影響を解明され、食品開発等にも応用がされています。

《杉田玄白賞地域奨励賞》

東京大学東洋文化研究所 助教 上田 遥 氏

食の社会学と倫理学のアプローチを用いて食育の理論化に成功し、英語圏で初となる日本とフランスにおける食育の学術書を出版するなど国際化にも貢献されています。

※受賞者の所属や役職名は受賞時のものを記載しています。